

当院にて稀少部位子宮内膜症でご加療中の方へ

当院では難治性稀少部位子宮内膜症（胸腔子宮内膜症、尿管・膀胱子宮内膜症、腸管子宮内膜症、臍子宮内膜症）の発症メカニズムの解明を目的とした研究を行っております。この研究は多施設で行われる共同研究で、東京大学医学部附属病院は主任研究施設です。

【対象となる方】

1999年1月1日～2016年12月31日の間に当院で胸腔子宮内膜症、尿管・膀胱子宮内膜症、腸管子宮内膜症、臍子宮内膜症と診断された患者さんです。診断時20歳以上の方が対象となります。

【研究の意義】

子宮内膜症とは、子宮内膜またはそれに似た組織が何らかの原因で、本来あるべき子宮以外の場所で発生し発育する疾患です。子宮内膜症の多くは、卵巣、卵管、ダグラス窩（子宮と直腸の間のくぼみ）や膀胱子宮窩（子宮と膀胱の間のくぼみ）に発症しますが、肺・胸膜、尿管・膀胱、腸管、臍などの他臓器にもできることが稀にあります。それらは「稀少部位子宮内膜症」と呼ばれております。「稀少部位子宮内膜症」は、世界的にも診断、治療ガイドラインもまだなく、発症原因も不明の難治性の疾患です。また、なぜ子宮と解剖学的に離れており、生理学的に関連性の薄い臓器に子宮内膜症が発症するかは明らかになっておらず、診断も困難であることが多いです。本研究はその発症メカニズムを明らかにしていき、将来的な診断法や治療法の探索に貢献するものです。

【研究の目的】

胸腔子宮内膜症、尿管・膀胱子宮内膜症、腸管子宮内膜症、臍子宮内膜症の症例数を多施設共同で集め、その発症メカニズムの解明と新規診断法、治療法の探索を目的とします。

【研究の方法】

この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、倫理委員会の承認のうえ実施されます。これまでの手術で切除され、診断確定後の残りの組織検体を用い、主に免疫学的組織検査を行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

この研究のためにご自分のものを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで2017年5月31日までに御連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式にて学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示します。下記までご連絡ください。ご不明な点がありましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

平成29年2月

【研究機関名】

研究統括医師：東京大学医学部附属病院 女性外科 講師 平田哲也

東京大学医学部附属病院は主任研究施設です。

本研究に必要な資金は、AMED 女性の健康の包括的支援実用化研究事業「子宮内膜症の病態解明、および予防・治療法の開発」より拠出します。尚、あなたへの謝金はありません。

【問い合わせ、苦情等の連絡先】

東京大学医学部附属病院女性外科 講師 平田哲也

住所：東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-3815-5411（内線33407） FAX：03-3816-2017

Eメールでのお問い合わせ：emosis-adm@umin.net

医療機関名 東京大学医学部附属病院 女性外科